

隣近所で助け合い 地域の防災訓練が活発に

問い合わせ 総務課 ☎2119



昨年は、全国各地で大きな自然災害が発生しました。広島市で発生した土石災害では、多くの人命が失われるなど大変な被害となりました。大竹市でも昨年8月6日には、50年に一度という大雨が降り、土砂くずれや多くの住家が浸水の被害を受けました。

災害時にはまず自分や家族の安全を守るためにどうすれば良いか、避難場所への移動が必要なのか、自宅などの屋内に留まる方が良いかなど判断することが必要です。

避難とは

○市の指定する避難場所へ移動

○屋外から屋内へ移動
○親戚や友人宅などの安全な場所へ移動

○自宅内の2階などへ移動

災害発生後の状況によって避難方法も変わってきます。

避難場所へ避難するときには次のことに注意しましょう

○雨などが激しいときや道路が冠水している場合は、十分注意して無理をしないよ

うにしましょう。浸水で側溝や段差に気づかず、ケガをする場合があります。
○履きなれた靴を履き、なるべく自治会の班やご近所同士でまとまって行動しましょう。

自主防災組織での避難訓練が活発に実施されています

各地区の自主防災組織では、災害時に備え避難訓練や炊き出し訓練、消火訓練などが実施されています。

最近、特に災害時に支援が必要な高齢者や障害者の方を地域で把握し、安否確認や避難の支援を訓練に取り入れるケースが増えています。

災害時に犠牲になる方の多くはこのような「災害時の要配慮者」と言われる方です。

日ごろのお付き合いが大切

いざというときのため、日ごろから隣近所や自治会の班単位でお互いが仲良く助け合える関係を築いておくことが一番大切なことです。



元町二丁目自主防災会 防災訓練の様子 (11月16日)



避難者の誘導をする自主防災会の役員。



車いすの避難者を支援する地域住民。



避難訓練終了後に班ごとに整列し、大竹警察署員から災害時の心構えを聞く訓練参加者。

松ヶ原地区自主防災会 防災訓練の様子 (11月16日)



地区ごとに避難してきた住民を名簿で確認。



炊き出し訓練では、温かくておいしい豚汁を作った。



煙体験ハウスで火災時の煙の恐ろしさを体験。